



武蔵越生高等学校は、昨年創立60周年を迎えました。『行うことによって学ぶ』の建学の精神を60年間一貫して掲げてきた本校が、今期新たに取入れたのは、生徒の夢や目標を実現させる為に自立心を育て生き方を教える『志教育』です。外部講師によるキャリアセミナー等、具体的な取り組みも始まりました。保護者にも講師をお願いし、子供の頃の夢や現在の職業、今後の人生など様々なお話しをして頂いております。

本校はPTA本部役員を中心に、広報委員、支部役員、学年委員の4つの委員会が全体の保護者の皆様のご協力により各種活動を行っております。年間を通しての主な活動としては、体育祭応援、支部懇談会、研修旅行、けやき祭参加、クラブ発表会企画運営、ウォークラリー応援があります。

けやき祭では工芸(絵馬の販売)、展示(天然石の

プレスレット作り)、模擬店、バザーと多数出店し子供達と共に学園祭を創り上げました。ウォークラリーでは参加生徒にココアや麦茶等、飲み物の提供をしました。昨年はクラブ発表会の代わりに、PTA主催の60周年記念行事として、ムツゴロウさんを講師にお迎えし「命の大切さ」というテーマで子供との関わり方やスキンシップの大切さなど、素敵なお話しをお聞きすることも出来ました。こうしたPTA活動を行うことにより、学校や子供達の様子を知ることができ、また先生方と保護者同士の繋がりも深まります。

昨年より「明るく楽しく前向きに」をスローガンにPTA活動を行ってまいりました。今後も繋がりを大切にし、子供が学校を卒業する時、共に「武蔵越生高等学校で良かった!」と思えるように、明るく楽しく前向きにPTA活動を盛り上げていきたいと思っております。

今後の予定 詳細につきましては、改めてご案内申し上げます。

平成25年 5月19日(日)
加盟校等代表者連絡協議会 [埼玉会館]

平成25年 6月2日(日)
定期総会 [さいたま市文化センター]

平成25年 8月29日(木)
研修会 [ラフレさいたま]

平成25年 10月6日(日)
加盟校等代表者連絡協議会 [埼玉会館]

平成25年 11月22日(木)
埼玉県私学振興大会 [さいたま市文化センター]

1年間ありがとうございました。



平成24年度 埼玉私学保連役員一同

Saishigakuhoren NEWS

発行 / 埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会

所在地 / さいたま市浦和区高砂 4-13-20 埼玉私学会館内 TEL.048-866-4478 FAX.048-866-4479

平成24年度埼玉私学保連活動をふりかえって
埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会
会長 島村 健



保護者の皆様には、埼玉私学保連の活動にご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。埼玉私学保連は、埼玉県中学高等学校協会と共に青少年の健全育成と私学振興を掲げて設立当初より活動してまいりました。

11月22日には、今年で6回目になります私学振興大会を共催いたしました。「公私間格差を是正し特色ある校風で学べる自由を!!」を大会スローガンに掲げ、2000人を超える保護者の皆様の参加をいただき盛大に開催することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

また、今年度は、昨年までにいただきましたご意見ご指導を踏まえ、事業の見直し、そして新しい事業を行いました。

事業の見直しでは、研修会の日程を変更させていただきました。2月の開催は、各校の行事とも重なり日程が難しいことと、平成23年度に日私学

保連関東地区代表者会研修会埼玉大会を8月に多くの皆様に参加いただき開催いたしましたこと等、検討いたしました8月に研修会(講演会、加盟校の保護者会の活動報告)を開催いたしました。

新しい事業といたしましては、2月に新春懇談会を開催いたしました。特にご多用の中、埼玉県中学高等学校協会の小川会長はじめ副会長の皆様にご参加をいただきまして、いろいろと参考になるご意見ご提言をいただきました。また、各校で在籍中の功績が顕著で、生徒の模範として努力している生徒を卒業式で表彰していただき、それを通して下級生の意欲向上と、更なる活躍を期待することを目的に優秀生徒表彰を行いました。

これからも埼玉県中学高等学校協会と連携して私学発展のために活動してまいりますので、加盟校の保護者の皆様のさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。



埼玉私学保連活動の報告

加盟校等代表者連絡協議会報告

埼玉私学保連 副会長 柳沼 薫



10月14日(日)14:30より埼玉会館を会場に34校35団体総勢87名の参加をいただき連絡協議会が行われました。

島村会長の挨拶に続き、埼玉私学保連側からの協議報告事項といたしまして

- ①「平成25年度埼玉県への施策並びに予算編成に対する要望書」を総務部学事課へ提出の件
- ② 私学振興大会の概要説明
- ③ 私学助成の概要・情勢報告

引き続き代表者参加校紹介に合わせて各校の特色のある文化祭・部活動の発表をいただき、時間を大きくオーバーするほど熱のこもった会となりました。代表者の方々にもお忙しい中多数の参加をいただきました。これからも多くの保護者の皆様に埼玉私学保連の活動へのご理解ご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。



埼玉県私学振興大会報告

埼玉県私学振興大会実行委員長
埼玉私学保連 副会長 石戸隆明



平成24年11月22日(木)さいたま市文化センターにて、埼玉県内の私立中学高等学校の保護者2000名と埼玉県副知事 塩川様、埼玉県教育委員会、埼玉県議会の先生方のご来賓を賜り盛大に開催されました。

この大会は埼玉県の私学教育の現状を理解し公私間格差を是正し学ぶ権利の保障を唱え6回目の開催となります。

今年度は多くのご関心をいただき、参加者数を制限するほどの大会になりました。参加されました保護者の皆様には改めて感謝申し上げます。

大会スローガンは「公私間格差を是正し特色ある校風で学べる自由を!!」会場は子供たちの安全と高い教育環境を望む強い想いで活気にあふれていました。

大会一部では、子供たちを教えることは未来への投資として社会全体が支えるという理念の下、私立学校の運営の安定性・継続性と公立私立学校間の保護者負担に対する格差是正に取り組む方向性を確認し、参加者の結束のもと大会決議文が採択され、決議書を副知事、県教育委員会に手渡し受理されました。

二部では2校の生徒の諸活動発表がありました。はじめは城北埼玉中学・高等学校の少林寺拳法。全国高等学校少林寺拳法大会の単独演武で準優勝、全国中学大会は3年連続出場など部活が盛んで中高の一体感のある演武と生徒の気迫で息を呑む発表でした。



2校目は聖望学園中学校・高等学校のハンドベル部の中学高校生35名による演奏。

イギリスでのハンドベル世界大会への参加やヨーロッパ最大を誇るリバプール大聖堂で演奏を行うなど国内外で幅広く活動していて、生徒達の信頼とチームワークから生まれる澄んだ音色の演奏は参加者を魅了しました。

埼玉私学保連では今後も子どもたちの活動の場と各行政機関や県議会への働きかけを行い、私学発展のために活動してまいります。

加盟校の保護者の皆様のごさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。



大会決議

公立高等学校の授業料が無償になるに従い、私立高校生に対しても、国から年間118,800円の就学支援金が支給されている。しかしそれでも、授業料ゼロの公立と、相当額の負担を要する私立高等学校との格差は歴然としており、そのことは私立高等学校の運営、発展に大きな脅威を与えつつある。幸い、埼玉県では、年収609万円未満の世帯を対象に、所得に応じた多額の県独自の上乗せ分が支給されている。それは全国でもトップクラスのものであり、我々は、知事並びに県議会の皆様に深く敬意を表する。

県立高校は、土地、施設の取得に始まりその維持費及び人件費に至るすべての経費が公費で負担される。その金額は文部科学省の調査で、高等学校の全国平均公立教育費は生徒一人あたり1,129,240円(平成22会計年度)に達する。公立高等学校は、保護者の負担はゼロであるが、国民の総支出という視点から見ると、決して安上がりな学校ではないのである。

私立学校は、経費の一切を、学納金並びに「私立学校運営費補助金」で賄わねばならない。平成24年度埼玉県当初予算では、生徒一人あたりの補助金額は274,059円である。大阪府の補助金対象は、私立高校在学学生全員で273,240円である。一見埼玉県が全国最下位を脱したように見えるが、埼玉県における私学助成の給付が、全国でも稀な学則定員内実数に支給されているために、実質的にはなお全国最下位である。関東で下位二番目の神奈川県は295,822円である。

それにもかかわらず、私立高校の教育実績は大きな成果を見せている。スポーツの成果、大学現役合格の実績等である。一方、中学校に対する24年度「運営費補助金」の実態は、国の財政措置一人当たり296,465円に対して、埼玉県の当初予算は253,931円で、全国最下位より4番目である。

国や地方自治体が、私立小・中学校にも補助金を支給しているのは、それが公教育の一翼を担う、極めて重要な教育機関だからである。義務教育の受皿である公立小、中学校が完備しているのだから、あえて私立小・中学校に行くのは、言わばグリーン車を選択するようなもので、保護者がグリーン料金を負担するのは当然であるとの主張がある。これは、保護者並びに児童生徒の学校選択の自由を完全に忘れ去った暴論である。

したがって、国及び自治体は、私立小、中学校に対しても、公立学校に対すると同様の教育費を支出しなければならない。その上に立ってさらに一層質の高い教育を実現すべく保護者が学費を負担する場合、それこそがグリーン料金と呼んで差し支えないであろう。

教育を決するものは、必ずしもお金だけではない。燃えるような教師の熱情こそ教育を支える最大の要因である。しかし努力にも限界がある。公立学校との著しい教育経費の格差は、長期的には私立学校教育の体力を衰弱させていくものであることを我々は深く憂慮する。

私学への補助金に関して、「埼玉県私立学校助成審議会」が本年より設立され、運営されている。この点に関し我々は、知事並びに県議会の叡智あるご決断に、衷心より敬意を表し、感謝申し上げる次第である。

我々は、更に一層埼玉教育発展のため、保護者、教師結束の下、力の限り努力し続ける決意であることを宣言する。

以上 決議する。

平成24年11月22日